

## 第3回軽米町総合戦略策定委員会議事録

○開催日時：平成27年9月2日（水）午後1時30分～4時00分

○開催場所：軽米町農村環境改善センター会議室

○出席者

委員：岩手大学名誉教授 齋藤徳美、岩手県立大学特任准教授 千葉実、軽米町社会福祉協議会会長 菅原皓文、二戸地方森林組合参事 小林康夫、二戸地域振興センター所長 佐々木亨（代理 畠山氏）、岩手県立軽米高等学校校長 熊谷拓也、株式会社岩手銀行軽米支店支店長 田澤義明、株式会社みちのく銀行軽米支店支店長 藤原博幸、株式会社エフエム岩手営業部販促企画室長 館澤徳寿、軽米町認定農業振興会会長 田中祐典、軽米町子ども育て会議委員 苅谷百合子、軽米町文化協会会長 堀米成嘉、軽米町商工会青年部 山野下 誠、軽米町商工会婦人部 高橋静子、一般公募 堀米孝太郎、竹澤勳

事務局：総務課 日山、吉岡、畑中

委託業者：非営利活動法人仕事人倶楽部 山田、水野、大島

### ○開会

（事務局）会議の成立について

本委員会は、20名の委員のうち16名の委員の出席をいただいたので、設置要綱第6条第2項により過半数の出席をもって会議が成立することを報告する。

### ○委員長あいさつ

（齋藤委員長）今回は次のステップの案としてまとめさせてもらった。皆様のご意見をどう反映させたかを確認してもらいつつ、また意見をいただければと思う。よろしく願いしたい。

### ○協議事項

#### （1）これまでの意見・アンケート結果について

資料について説明（事務局、省略）

（齋藤委員長）ご意見、ご質問があればお願いしたい。

（委員）合計特殊出生率2.22について、p9グラフの中ではどこがそれかがわかりづらいので、目立つようにしたらいい。

（千葉副委員長）内容はよく練られていて良いと思う。p4に最終の目標が記載されているが、ビジョンの最後がいいのか、総合戦略の目標年がいいのか、どちらかの時点での目標人数をはっきりさせたほうがいい。また、なぜ2.22を目指すのかを書いた方が良い。社会減をなくすにしても、目標としてはかなり高めの設定がなされていて、それは良い。根拠に基づいた数字を使っているので、それをはっきり記載した方が良い。

（齋藤委員長）根拠として用いている数字については良いか。これはあくまでも、国の推計に基づく1つの数字。2060年がどうなっているかは、誰にもわからないので、将来的な数字にあまりこだわらないほうがいい。根拠としている目標は、過去の実績を裏付けとして出されており、それなりの根拠と言える。どこまで書くかは判断が分かれるところだが、私としてはほぼ書かれていると感じた。これを数値目標とすることについて、他に意見はないか。

(意見なし)

## (2) 人口ビジョン・総合戦略修正案について

資料について説明(事務局、省略)

(齋藤委員長) 前回、基本のコンセプトについてはご了解をいただき、委員の皆さんからいただいたたくさんの意見を踏まえて、今回の戦略一覧をつくってもらった。それぞれの項目のところで、加味していただいたと理解している。ご意見やご質問をお願いしたい。

(委員) しごとの創生のところで、減る目標というのはやはり違和感がある。目標の書き方としては、就業者数が推計結果に対して、プラスになる分を増やす。例えば、就業者数 280 人分の仕事を増やす、事業所数も同様。そういった考え方にしてほしい。また、再エネについて、発電になぜこだわるのか。発電という文字を消してほしい。軽米は冬の寒さが厳しいので、ほしいのは熱源。目標についても、どれだけの人を増やしたいのかを項目ごとに割り振れば一番いい。280 人分の仕事がないのなら、施策が不足しているということ。そういった点で考えてほしい。一番気になるのは、実行する人がいるのかどうかということ。総務だけでやるわけではないだろうし、実行する人を育成することも必要なのではないか。ふるさと納税にしても、情報発信にしても、すぐにできるものはあったらいい。夏休み期間中、「ハイキュー！」は毎日 5 人以上来ていた。遠い人は大阪・京都もいた。車で来た人は、町役場で情報がないかと言ったら、「何もなし」と言われたという。観光案内を渡して、軽米高校はここです、くらいの案内はほしい。こういった人たちはネットで発信していくので、対応が必要。情報発信などは、やる人が必要だと思うので、考えていただきたい。

(齋藤委員長) 人口減の中で目標を考えると、減る目標というのもしやむを得ないかと思う。

(委員) 再エネ発電についてはどういった事業なのかがわからないが、ここに来て思うのはやはり木だということ。それから、個人的に思ったのは、プレミアム商品券が出ているが、個人的にはあまり好きではない。プレミアム商品券は全国でやっているが、盛岡で聞いたのは、普段も利用してくれる人が、安く買っていただけというもの。また、全国チェーンでも使えることで、地元ではあまり評判がよろしくない。また、人口が減っていくのは仕方がないということなので、減る分を緩やかにしていく、その中で就業者数や事業所数が減るのも、その理由を明記する必要がある。地方創生の中で、できない目標は立てられないので、少なくともというのもしやむを得ないかと思う。

(菅原副委員長) 委員の話もなるほどと思ったが、人口減が毎年 200 人くらいある中では、本来はもっと高く目標を設定したくても、見通し的にはやむを得ない気もする。少しでも抑えたいという中で、このような目標が出てきたのかと思う。1 つ気になったのは、軽米高校の入学者数。子どもの数が減る中で、目標も現況と同じに設定されているが、減らしたくないという願いが入っているのか。確認したいのだが、平成 27 年の入学者数が 58 人というのは、平成 11~12 年頃の出生数。そのあたりの出生数を考慮しているのか。

(委員) 軽米高校について、平成 27 年度の入学者数 58 人、軽米中学の卒業生は 88 人。他に行っていた生徒の中で、軽米高校に適している人はいなかった。将来についてはかなり厳しい数字で、今の小学校 6 年は 77 人。これは、今の小学校の中では最も多い人数。分母が増えないと、入学者数も増えないので、なかなか厳しい。

(齋藤委員長) 同じ数字というのは、根拠は何なのか。

(事務局) 先生とも相談させていただきながらこの数字は弾き出した。58 人を割ると、学校の存続が厳しいという中から決めた。子どもの数が減る中では厳しいと思いつつ、みんなで何とか頑張りたいとした目標。

(齋藤委員長) 情緒的なものも一部含めて掲げた数字ということで良いか。減少を目標と考えることについて、事務局の考えは。

(事務局) 就業者数については、新たな仕事の創出もあるにはあるが、それがすべてではない。今ある仕事を維持していくのも大事で、この2本柱として考えている。減少を抑えていくということでご理解いただきたい。

(千葉副委員長) 表現の問題だと思う。委員がおっしゃることはもともとと思いながら、減少がやむを得ないのも感じているのではないか。先ほど言われていたように、差引がプラスになるなら、それをうたうということなので、前向きな表現にした方が目標としてふさわしいという考え方なのだろう。

(齋藤委員長) 全体数値目標として掲げてあるので、目標ならば前向きと言える。

(事務局) 目標ではなくて、指標としたらどうか？

(千葉副委員長) 戦略の中には、防御という考えもある。手をこまねいていたらこのくらいに減るのを、総合戦略でこのくらいに止めるという考えで、防御として前向きなメッセージを出せないか。

(委員) 何も、新しい仕事ですべて賄うとは思っていない。下がる目標というのはなかなか理解できないと思うので、ぜひ上向きの形で、表現方法があればそれで良い。

(事務局) その通りだと思うので、この下にわかりやすい表現で、このままで行けば減るのをここまで抑える、それと新しい仕事を生み出す、というのを組み合わせて、最終的な総数はこのくらいという表現を考えたい。

(齋藤委員長) 表現を工夫してみたい。おそらく、目標が下がる数字というのは、他でも同じように多く出てくるだろう。工夫の余地を残させていただきたい。前回、1万人の町が1万人でなければ幸せではないのか、5000人で幸せな町ができるなら、それを目指すという意見もあった。ある程度の規模があって、それで幸せに暮らせるなら、それはそれで1つのコミュニティづくりの成果だ。また、「発電」という言葉だけではという話もあった。現在は発電が具体的に上がっているので、このような表現になったかと思う。再エネはいろいろな利用の仕方があるというので、発電だけにこだわらなくても良いかも知れない。

(事務局) 町の大きな施策として、太陽光発電事業に取り組んでいるのは、町長の強い思いとしてもある。エネルギーの地産地消、自給としては森林資源、例えば薪のようなものもあるかもしれない。これについてはまだ事業として落とし込めていないので、3月までの間に検討したい。

(齋藤委員長) 町としては、発電が一番大きな要素としてあるので、このような表現になっているかと思う。検討事項としていただきたい。今日もまた皆さんから一通りご意見をいただきました。非常にたくさんの項目が網羅されている。総合戦略としては、3つの柱のような大きなものに絞られていくように思うし、毎年取り組むこととして、これができれば次、というよ

うな形で、順次改訂されていくものだろう。なので、これですと行くというわけではないことは了解していただきたい。

(委員) すごくしっかりまとめられていて、すごいなというのが最初の印象。自分は盛岡の私立高校だったが、盛岡以外から来た人の方が、地元に戻る率が高い。軽米高校さんには申し訳ないが、そこに行くことにこだわらない方がいいと思う。盛岡以外の出身者は、多くが地元に戻った。離れてみると、地元が良いとわかる。なので、必ず地元の学校に行かなければならないということもない。自分は不妊治療をずいぶんやったが、昨年止めた。一時は仙台まで行き、6年間で700万くらいかけた。県の補助もあったが、それでもかなりの費用がかかった。この話をしたのは、それだけ経費がかかるということと、例え焼け石に水だとしても、補助があるのはとてもありがたいということ。町で補助することで、それを期待してやって来る人もあるかも知れない。先ほども少し言ったが、プレミアム商品券はあまり地域のためにはならない。ぐるっと軽米を回ってみて思ったが、南部の十字路と言われても、ピンとこない。発信の問題だと思う。もっと発信していくべき。休耕地が目立ったので、そばをもっと植えたら良いのではないか。こだわっているそば屋さんは、国内産にこだわっている。そばは需要があると思う。この時期だからか、花がとても多いと思った。フォリストパークまでチューリップで埋め尽くすというのもいいのではないか。

(齋藤委員長) 軽米はプレミアム商品券を早くからやっていたと思うが。

(事務局) 今年は3割については、大型店でも使えるようにしたが、以前は町内の商店しか使えないものだった。

(齋藤委員長) 盛岡は全国チェーンも多いので、どうしてもそういう店に流れて行くのだろう。軽米の場合は、地元商店街の活性化という意味合いも強いと思う。

(委員) 高校の卒業生について、どのような対策をするのかがよくわからなかった。今の若い人は考え方も違うと思う。また、サマースクールでは海外の人が軽米に来たこともあった。他所から来た人と交流することで、その後も交流が続くこともある。大きな刺激になったり、英語力をつける理由にもなったりするので、ぜひ入れてほしい。地元でできない分は他所を活用する考えも良いと思う。先日も町中で「ハイキュー！」の人が10人くらい歩いていた。若者は考え方も違ったりするので、ぜひ交流したい。また、先日サッポロビールの人に来て、ミレットパークでとても良い場所だと言っていた。まだまだできることはある。対策はあるけれどもやる人が少ない。

(委員) 出会いの創出について、自分の息子は県外に住んでいる。嫁は都会出身者で、軽米に帰ってくれば自然が豊かで、そのような場所で子育てがしたいと言っている。都会の人の中にも田舎が良いと思っている人もいるので、出会いの機会をどうつくっていったらいいのか。軽米にも結婚しない人が多くいるようなので、男女の交流をもっと広くやってほしい。また高齢者について、一人暮らしは寂しいだろう。郊外なら隣近所も遠く、車が運転できなくなれば出かけるのも難しくなる。楽しめる場所か、またはみんなで集まって住める場所があるといい。「高齢者にやさしい住まいづくりの支援」があるので、そういったものも入れていただきたい。

(委員) 三圏域の中心としての情報発信に努めるとあるが、今は発信していないということか。ま

た、三圏域内での仕事に通じる交流というのは、どういう意味なのか。仕事と限定しているが、もう少し言い方を変えても良いのではないか。また「きめ細かい情報発信」とあるが、町のウェブページを見ても、まだできていないと思う。文化協会としては、いろんな活動をしているので、情報発信に活用してほしい。毎年町から委託を受けて、作品をテレビに応募している。ここ数年は雑穀をテーマに制作して、賞をいただいたりしている。文化協会の活動が発信に一役買えると思うので、ぜひ活用してほしい。グラフを見ていても、人が増えることはなさそうなので、今の人たちが元気に暮らしていて、やたら元気な軽米をつくれたらいい。

(委員) ふるさと納税はすでに何年かやっていて、かるまいブランドの産品もたくさんあるわけだから、もっと活用したらいい。「ハイキュー！」でたくさん人が来ているので、そういう人たちにも納税しませんかと進められる。ただ、物産のページを見ても載っていない。「ハイキュー！」の人たちは、ここにいる年代の人たちでは話が合わない。息子がラベルを作ってあげているが、自分には理解ができない。そういう人もいるので、広く人材を募って、やるべきことはチャンスを見逃さずにやるべき。「ハイキュー！」もこの2～3年がピークではないか。

(委員) p17の基本目標について、この中に「魅力ある軽米」というのをに入れてほしい。3つのうち、どれでもいい。コンセプトの中に追加してもいい。「魅力ある」というのは人をひきつけるということなので、入れるべきだ。軽米高校の存続については、校長先生もいらっしゃるのでぜひお願いしたいのが「魅力ある軽米高校」をつくっていくこと。以前、軽米高校に勤めていて、今どのような状況なのかかわからないが、当時は進学指導にかなり力を入れていた。それも魅力の1つではある。小・中学生がぜひ軽米高校に入りたい！と思うためには、勉強だけでなく、部活や文化活動、ボランティア活動、地域の行事への参加なども生徒たちが積極的に活動に取り組む指導が大事なので、ぜひやってほしい。他の地域に出て行く生徒は、部活で良い成績を上げているような人。せっかく軽米には剣道や卓球などの指導者もいるので、ぜひ学校に来て指導をしてもらいたい。そうすれば、地元に残る子も多くなる。また、子育て支援について、妻が放課後教室の指導員をやっているが、小学校の教室内では静かな子どもたちが、放課後教室に来て騒いでいるという。あいさつもできないし、言うことをさっぱり聞かない。学習指導も大事だが、生活指導ができる人を指導員にしてほしい。現在の指導員にも、研修の機会をつくってほしい。または指導員になる場合に、こういう指導をしてほしいというお願いをする必要もある。出会いの創出について、「かるまい交流駅」構想について、とてもいいアイデアだと思う。商店街の活性化に関連して、合同店舗をつくり、その中に若者が集うような喫茶コーナーがあれば、出会いの機会にもなるのではないか。

(委員) p28について、ここに住み続けながら外に働きに行くという選択肢もある。また、推進体制について、これをだれがやるのかという話が出ている。巻末に入れるか、各項目に入れるのかはあるが、誰が主体として取り組むのかを入れていただきたい。また個人的な考えとして、事業者数の目標について、「事業者減少数」をしてマイナスをプラスに見せるような言い方もあるのではないか。参考にしていきたい。「転出者数」で減少を緩やかにするという例があるので。

(委員) アンケート結果を見せていただいて、いろんな考えがあるのだと感じた。住んでいる地域や世代によって、とても様々な意見があり考えさせられた。今日感じたのは地の利。地域が一緒になって、広域でやれることがあるのではないかと。近々、学童野球の県大会があるが、この地域は宿が少ない。子どもだけではなく、親も一緒にくるので、人数的には倍になる。うちだけでは一杯になるので、八戸や二戸の宿泊施設も紹介している。「ハイキュー！」は、あの世代の中では盛り上がっているが、商店街への波及効果はあまりないようにも感じる。地域で協力できる場所は、お互い情報を共有しながらできればと思う。

(委員) 一番大事なのは仕事。仕事の創出として、どんな業種がいいのか。それを絞り込んだらどうか。事業所数が減っていくのは仕方ないが新たな事業所を増やすことに注力する方法もある。また、農林業について、就業者数を見ると高齢の方が多い。あと10年すればどうなるのか。農業の法人化、集約化はどうしても進めていかなければならないだろう。農業の集団化の組織率、法人数というとらえ方もある。そばやさるなしの面積は出ているが、岩手県の中ではどのくらいの位置づけなのか。そばを主力として、農家が成り立っているのか。所得をベースにしたとらえ方もあるだろう。取り組んだ事業者数がどのくらいなのかというのも1つの視点。

(委員) 基本目標3つについては、このとおりで良いと思う。アンケートの結果も網羅されている。取り組み項目の中の星印について、★が新たな取り組みとなるならば、今上がっているものはかなりスタミナが必要に思える。民間の活用もぜひ視野に入れていただきたい。具体的な取り組み等の項目が非常に多いので、費用対効果の視点から見直しをかけていく必要もあるか。基本目標③が一番だと思うので、情報の発信の必要性については、自分も感じた。大きなポイントだと思うので、ぜひ取り組んでいただきたい。

(委員) アンケートの自由記述を読んで、正直暗い気持ちになった。当事者意識ではなくて、野次馬的な視点に感じた。「全ての世代にやさしく」というのは、誰もが文句を言わないだろうが、何かをやろうというときに選択と集中をしないと、パワーが分散する。全ての人を満足させようとする、誰も満足させることができない。バランス型の町として完結させようとする、どこも同じところを目指すので、差別化できない。何かしら個性が出せた方がいい。元気に長生きできて、最期は看取られて良い感じで死ねる町というのも良いのでは。農業に関しては、企業化された農業を目指したらどうか。機械を個別に持つのが大変であったり、休みが取りづらいという話もあるので、法人化してサラリーマン化させることも必要ではないか。合計特殊出生率が県や全国より高い中で、乳幼児の死亡率が高いのか低いのか、それがわかると安心して産めるという話にもつながる。

(委員) 具体的な内容が多く盛り込まれているので、ぜひ実行をお願いしたい。社人研で推計している数字が実際に近いと思われるので、それをいかに上げていくのかが求められる。

(委員) 高校の生徒数について、私の地元は葛巻町だが、地元の酪農を全国的に発信して、それをやりたいという人を集めている。軽米町でも同じような発信ができるのではないかと。また、第三セクターがあるのなら、積極的に外へ出て行って、発信をやっていったらどうかと思う。

(委員) 気になったのは、定住・移住の環境づくりとすべての世代について、図の中で重なっているところはもう少し見やすくしていただいた方が良くと思う。軽米町の中で完結せず、周

辺に仕事に行って、生活は軽米町で充実した生活ができる、そんな町づくりをもっと進めても良いと思う。商工会青年部としては町と連携しながら、今後も様々な事業を続けていきたい。

(菅原副委員長) 高齢者が重視されている傾向があるが、この法律の趣旨からすれば、若者が子育てをしやすいまちづくりを進めて、東京一極集中を緩和しようというのが本来必要なこと。5年間に、もっとこれを重点的にやろうというのがあっていい。仲人支援制度の検討というのがあるが、昔は若い人がいれば、必ず世話をするおばちゃんというのがいた。結婚したくてもできない人がたくさんいるが、とりあえず結びつけるのが必要。街コンもあるが、仲人制度がいい。若人たちに予算を集中して使えるような町になってほしい。計画は総花的に立てるが、今年は特にここ、というものが必要。町長は時々「子育て日本一」といわれるが、どの辺りが日本一なのか不思議に思う。他所と比較して、ここが軽米の良いところ、というのであればどんどんアピールすべき。

(千葉副委員長) 事務局の皆さんの労をねぎらいたい。いくつかの市町村に関わる中で、軽米町はよく取り組んでいるし、この委員会の議論も充実している。目的がずれないようにしたいと考えている。これは総合計画ではない。目的とするところは、社会減と自然減を減らす、人を外に出さない、人を呼び込むというもの。そのための雇用の対策、子育ての対策を考えていく必要がある。奨学金も有効な手段。軽米で5年働けば、返還しなくても良い、そのようなものを考えられたらいい。シンプルに人口減少対策というのを念頭に置いておかないと、軸がずれてしまう。2点目、この戦略はこれで完成するものではなく、1つの取り組みが完了すれば、今後更新していくもの。3点目、実行していくのは、行政だけではなくて、みんなで行っていくことが必要。役割分担として、誰が何をするのか、今回集まってくさっている団体も大事ながら、一般の住民の皆さんにも一緒にやってもらうことが大事。行政で賄えないものは、住民の皆さんにもやってもらう、そんな回し方も検討したい。例えば金融機関にも手伝ってもらうような、進め方の仕組みも議論してもらおうのがここの場だと思う。

(齋藤委員長) これは地域が一体となり実行して初めて戦略の意味がある。地域が一体として、自分たちの町をどうもっていくのかが重要。実践が戦略そのものになっていくだろう。盛岡辺りだと大学の先生が入りやすい。しかし、市町村はその辺がなかなか難しい。行政中心でやらざるを得ず、事業者や住民と二人三脚で進めていくことになるのだろう。みんなで行く、そのプロセスが戦略になっていくと思う。どう実践していくのか、まずは走ってみることも大事。今日は大きな原則については了解いただいたし、個々の事業についても見ていただいた。個々の事業は、もう少しメリハリをつけて、どこをターゲットとするかという点を事務局で再度整理していただき、次回また議論したい。

## ○閉会

(事務局) 閉会あいさつ